

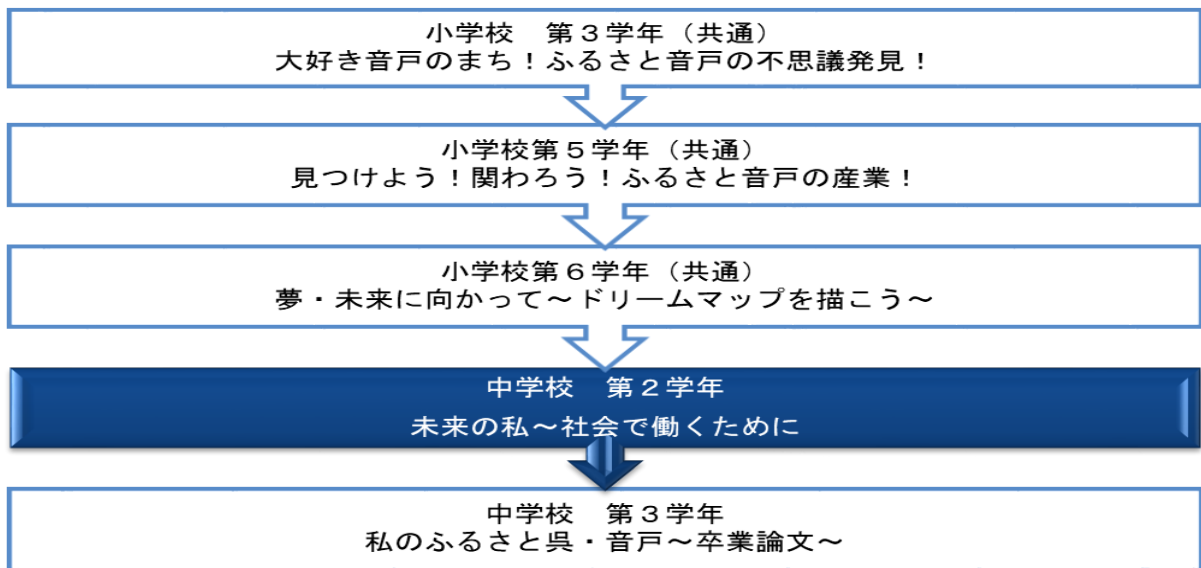
総合的な学習の時間	第2学年	呉市立音戸中学校	指導者 磯方 源太
単元名	未来の私 ～社会で働くために～		令和3年12月17日(金) 2年1組 男子16名 女子12名 計28名
本単元で育成する資質・能力		「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「地域の一員として関わる力」	

## 1 単元について

### (1) 単元について

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。キャリア教育の視点を踏まえた学習内容を構成する。

### (2) 他の単元とのつながり



## 2 このような生徒です

令和3年4月に行った校内アンケートの「課題発見・解決学習」の領域等における結果は以下の通りである。

学習過程	質問項目	肯定的評価
課題の設定	授業では、「本時のめあて」を意識して学習をしています。	88%
	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思います。	79%
	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	88%
情報の収集	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	83%
	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	81%
整理・分析	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	81%
	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	79%
まとめ	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	63%

・創造 ・表現	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。	75%
	授業では、友だちとの話し合いで、自分の考えを深めたり広げたりしています。	88%
実行	授業では、計画したり提案したことについて、実際に取り組んでいます。	90%
振り 返り	授業では、学習の振り返りをするときには、「本時のねらい」が達成できたかを考えています。	87%
	授業では、学習の振り返りをするときには、学習内容と日常生活とのつながりを考えています。	75%
その他	授業で学習した内容や学習の進め方を、ふだんの生活や学習の中で使っています。	79%

### 3 だからこのような授業をします

生徒の学びを充実させるために、学びの過程における各場面において、次のような工夫を行う。

課題の設定の場面では、国勢調査の職業分類を取りあげ、平成の30年間で職業分類からなくなった職業の数の「24」をキーンナンバーとして提示し、生徒の興味・関心を高め、時代とともに社会が変化していくということに課題意識がもてるようにする。変化していく社会の中で将来、自分たちがどのように働いているか想像したり、社会に求められている人材像を想像したりすることで考えを広げていきたい。

情報収集の場面では、事前の計画を立てる際に、「いつ・誰が・どのような情報を・何のために・どのようにして」集めるか、一人一人の役割を明確にした上で活動する。また、その内容をワークシートにまとめ、これまでの学習の過程や進捗が一目で分かるようにする。情報収集の方法としては、インターネットだけではなく、先輩や保護者、地域の方々にインタビューを行い、実地調査を行う。インターネットの情報だけを鵜呑みにするのではなく、情報を多面的に収集するようにする。

整理・分析の場面では、アンケート調査やインタビュー調査をまとめる際、表やマトリックスを用い、視覚的に情報を捉えられるようにする。アンケート内容やインタビュー結果をそのまま鵜呑みにするのではなく、共通する事項やキーワードなどを考え、収集した情報から大切だと思う要因を考えさせる。

まとめ・創造・表現の場面では、「人生の羅針盤」を作成し、人生の羅針盤をもとに自分のこれからについて語る場面を設定する。班や学級でお互いに交流し、他者の考えを知り、自分と比較させることで自分の考えを深化させるようにする。

### 4 単元の目標

地域で働く人や様々な仕事と関わり、探究することを通して、働くことの意義や喜び、社会人として必要なもの、ことについて学ぶことができる。

### 5 単元の評価規準

育成を目指す資質・能力	評価規準
① 知識・技能	学習過程において課題解決に必要な知識・技能を身に付け、郷土・自分自身の将来を見据えた、探究的な学習のよさを理解している。
② 思考力・判断力・表現力	情報を批判的に分析・整理し、効果的に表現している。
④ 地域の一員として関わる力	呉市及び音戸町の一員として課題の解決に向けて、地域社会に参画しようとしている。

6 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	・学習内容 ○個別の問い	評			価
			①	②	④	評価方法
		<b>単元を貫く問い</b> 「社会で活躍し、社会に貢献するために、今、何ができるだろう。」				
1	1	<b>課題の設定</b> <b>整理・分析</b> ○どうして24種類の職業が無くなったのだろう。 ・平成の30年間で国勢調査の分類から無くなった職業、新たに加わった職業の一覧から、どうして職業に変化があったのか考える。【本時】		○		・ワークシートへの記述の確認 ・発言の確認
	2	<b>情報収集</b> <b>整理・分析</b> ○急激に変化する社会に対応するために、自分はどんな力を身に付けていかなければいけないのだろう。 ・自己紹介と他己紹介を作成する。自己紹介と自分のことが書かれた紹介を比較し、現在の自分を分析したり、過去のエピソードから自分の言動の傾向や習性を分析する。		○		・ワークシートへの記述の確認
	3	<b>まとめ・創造・表現</b> ・現在の自分の分析シートを作成する。		○		・ワークシートへの記述の分析
2	4	<b>課題の設定</b> <b>情報収集</b> ○3年生や卒業生、保護者や地域の方々はどのように自分を成長させてきたのだろう。 ・3年生や卒業生、保護者、地域の方などにインタビューを行い、人生の先輩方がどのように自分を成長させてきたかを調べる。	○		○	・ワークシートへの記述の確認 ・行動の観察
	5	<b>整理・分析</b> ○アンケート結果からキーワードをみつけてみよう。時代の変化と自分の成長に関わるキーワードに関わりはあるのかな。 ・アンケート結果を分析する。アンケートからキーワードを見付け、キーワードを分類する。 年齢層毎にキーワードを分類する。	○	○		・ワークシートへの記述の確認 ・発言の確認
	6	<b>まとめ・創造・表現</b> ○自己分析の結果とアンケートの結果を参考にして、自分のこれからを考えよう。 ・自己分析の結果とアンケートの結果からこれからの自分を考える。		○		・ワークシートへの記述の分析

3	7	<b>課題の設定</b> <b>整理・分析</b> <b>まとめ・創造・表現</b> ○将来、変化する社会で活躍、社会に貢献できる社会人になるまでに、今何ができるだろう。 ・「人生の羅針盤」を作成する。		○	○	・ワークシートへの記述の分析
	8	<b>まとめ・創造・表現</b> ・学級で作成した「人生の羅針盤」をスピーチする。		○		・行動の観察

## 7 本時の目標

- 国勢調査の職業分類の変化から、社会の急激な変化を考えることができる。

(思考力・判断力・表現力)

## 8 本時の展開(本時 1/8 時間)

学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点 (○) (「特に配慮を要する」生徒への支援●)	評価規準 (評価方法)
1 知っている職業を発表する。 (1)知っている職業について発表する。 (2)昔からある職業と新しい職業に分類する。 (3)「24」のキーナンバーを提示し、この数字が何の数字なのか考える。 (10分)		○生徒の知っている職業を挙げさせる。 ●職業調べで自分が調べた職業を思い出させる。 ○キーナンバーを提示し、30年間で国勢調査の職業分類から「24」種類の職業が無くなった理由を考える。	
<b>本時のめあて</b> 30年間で24種類もの職業が無くなった理由を考えよう			
2 24種類の仕事が無くなった理由を考える。 (12分) (1)個人で考える。 (2)班で考えを交流する。 (3)全体で考えを交流する。	・人気が無くなったから。 ・儲からなかったから。 ・新しい職業ができたから。 ・機械が代わりに仕事をできるようになったから。	○自分の考えを形成させる。 ○自分の考えを表現させる。また、他者の考えを知り、自分の考えと比較させる。	
3 24種類の仕事が無くなった理由をもう一度考える。		○他者の考えを知り、自分の考えと比較した上でもう一度自分の考えを形成させる。	情報を批判的に分析・整理し、効果的

(18分)			に表現している。(ワークシート)
<b>生徒の記述の例</b> 30年間に24種類もの職業が無くなったのは、社会が大きく変化し、必要な職業が変化したから。			
4 振り返りをする。 (10分) ・本時の振り返りを行い、次時につなげる。		○単元を貫く問いを提示する。	
<b>単元を貫く問い</b> 「社会で活躍し、社会に貢献するために、今、何ができるだろう。			

## 9 結果と考察

本単元の成果について、「課題意識をもたせる導入であったか。」「課題に対する自分の考えを表現しているか。」の2つの視点で考察する。

### (1) 視点1 課題意識をもたせる導入

単元を展開する上で生徒が課題意識をもち見通しをもって授業に取り組むことで、主体的に課題の解決に取り組めると考えた。その状況を図1に示す。なお、本評価の判断として、事前事後で実施したアンケートを用いた。アンケートの項目は、①「授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。」、②「授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想しています。」とした。

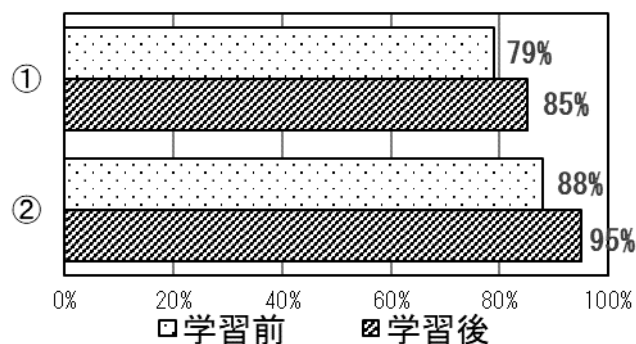


図1 課題意識の変容

また、本単元の第1時が終了したときの生徒の振り返りの記述を次に示す。

#### ○時代と社会の変化に課題意識をもった生徒の記述

なぜ30年間で24種類もの職業が無くなったのか。
どうして職業が増えたり、減ったりするのだろうか。
減ったのも気になるが、なんで新しい職業が25種類もできたのだろうか。
どうして、AIやロボットの力が必要になってきたのだろうか。
新しくできた仕事はどうして必要になったのか。

#### ○未来の社会に課題意識をもった生徒の記述

これからもっとAIが普及し、人間の職業は減っていくのではないかと。
このままいくと、全ての仕事を機会に任せてしまうのではないかと。

これから先、どんな新しい職業ができてくるのか。
今ある職業の中で、今後無くなりそうなものはあるのか。

(2) 視点2 課題に対する自分の考えを表現しているか。

課題に対する自分の考えを表現する場を設定し、ワークシートへの記述を確認することで思考力・判断力・表現力を見取った。「変化が激しい社会で活躍するために、どんな力・能力を付けていく必要があるか。」という問いに対する、生徒の記述を次に示す。

社会に適応する力。
機械やAI、ロボットなどではできない、人にしかできない職業を見付ける。
どんなことにも対応することができる力が必要。
応用力が必要。
時代の流れに敏感になり、何が必要で、何が不要でないかを判断する能力。
ロボットのプログラムを作れる能力を身に付ける。
時代に対応できる力。
人と人との協力。

## 10 単元で育成を目指す資質・能力に係る成果と課題

(1) 成果

○ 単元の初めに課題意識をもたせることで見通しをもって学習に取り組むことができた。これまでの社会の変化に課題意識をもった生徒やこれからの社会の変化に課題意識をもった生徒がいた。単元の導入を工夫することで、学習を進めるにあたって、とても重要な点に課題意識をもつことができた。結果と考察(1)に示す通り、課題解決に必要な知識・技能を活用しようとする生徒アンケートの肯定的回答が向上するとともに、振り返りにおいても課題意識について具体的に記述することができていた。(知識・技能)

○ 結果と考察(2)で示したように、課題に対する自分の考えを表現する活動を、単元全体を通して充実させたことで、自分の考えとその理由を明確にして次への学びへとつなげることができた。また、調べた情報を整理・分析する際には、表やマトリックスを用い、視覚的に情報を捉えられるようにした。このことにより、共通する事項やキーワードなどを考え、収集した情報から大切だと思う要因に焦点化し、整理・分析することができた。さらに、単元のまとめとして「人生の羅針盤」を作成し、自分のこれからについて語る場を設定した。班や学級でお互いに交流し、他者の考えを知り、自分と比較させることで自分の考えを深化させることにつながった。

(思考力・判断力・表現力)

○ 3年生や卒業生、保護者、地域の方々などにインタビューを行い、人生の先輩方がどのように自分を成長させていったかを伺う活動を行った。また、インタビュー結果からキーワードを見つけ、年齢層毎にキーワードを分類することで、時代の変化と自分の成長を関連付けて考えることができた。本単元の内容は総合的な学習の時間だけでなく、他教科との繋がりや、学校行事や生徒会行事とも関連付けることができる内容であり、カリキュラムマネジメントの充実を図ることができる学習内容であった。(地域の一員として関わる力)

## (2) 課題

職場体験学習を実施することができなかつたので、実際に働いている人から学んだり、話を聞いたりすることができなかつた。今後、同じような状況になった場合、どのように学びを充実させるか検討し、改善していきたい。